



## 学びのページ

## 「礼」

### 今

回は「礼」について学んでいきましよう。

「礼」は「礼儀・礼節」などの言葉に用いられるように、人間関係を円滑に維持するために守るべき社会生活上の規範、人として守るべき作法などの意味があります。また、「礼」の旧字である「禮」は、神様や先祖さまに収穫した作物を器に載せ、豊作を報告し、感謝を捧げるさまを表しています。

金剛さまは「礼とは感恩の意思表示である」と説かれています。つまり、「有り難い」と感じた時、感謝の気持ちを表現することが「礼」です。

たとえば、人に助けてもらった時、「有り難かったなあ」と心の中でどれだけ思っているか、相手には伝わりません。「この間はお世話になりました」と御礼の言葉を伝えたり、品物を贈ったりなど、感謝の気持ちをきちんと形で表す

ことが大切です。

また、金剛さまは「礼とは敬意（うやまつきもち）の表示」ともおっしゃられています。「敬」とは、言い換えるなら「相手を尊敬し、大切に思うこと」です。

大人になるほど礼儀作法を求められる場面が増え、「面倒だな」と感じるかもしれません。しかし、もし目の前にいるのが自分の憧れの人だったらどうでしょう？ 相手の気分を害さないように、自然と言葉づかいや振る舞いにも気を配り、心を尽くして接するのではないのでしょうか。

礼節とは「堅苦しい決まり事」ではなく、「私はあなたのことを大切に思っています」という気持ちが相手に伝わるように表現する方法です。そして、誰に対しても「敬心」を持ち、きちんと「形で表す」ことが、解脱の教えが説く「礼」です。

解脱会での奉仕は、自らの体を使い、神仏や金剛さまに対する報恩の実践行の一つであり、「礼」の表現です。

そこで大切なのが「やってやる」ではなく、「させていただく」という謙虚な姿勢です。たとえば、奉仕の際、「金剛さまのもとで精一杯お使いいただきます」という気持ちで、元気に奉仕させていただくことが、自分の心を磨き光らせる「礼」の実践です。

これまで学んできた、「忠・孝・仁・義」の四つの徳目を実践する上で、「礼」は欠かせないものです。相手に対する「敬いの心」を持って、具体的に実行する「礼」があつてこそ、本当の価値が生まれるのです。

◎日常生活の中での具体的な「礼」の実践について、みんなで話し合ってみましよう。